

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 19 日

所属	国際教養学部	職名	准教授	氏名	藤田 輔
研究課題	世界の貿易、投資、開発援助の動向及び国際機関のガバナンス機能に対する多角的考察				
研究キーワード	貿易、投資、開発援助、国際機関	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	16. 平和と公正をすべての人に	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今回は、特に、貿易、投資、開発援助の分野を中心として政策協調を行う国際機関の経済協力機構（OECD）の役割を再考することに焦点を当て、研究を逐次進め、下記のとおり、論文を執筆した。具体的には、OECDの加盟国の「拡大路線」の歴史を概観する一方で、依然として加盟国の過半数が欧州諸国であること等、「原点回帰」の動きも見せているという事実関係を整理し、ロシアのウクライナ侵攻の事態を受け、今後、世界で求められる OECD の方向性のあり方を再考し、それを展望した。また、従来からの専門領域である開発経済学やアジア経済論の知見を踏まえて、東アジアにおけるロボットの活用と生産ネットワークに関する実証分析（Robots and production networks in East Asia）を行った海外の若手研究者の学会討論者を務めた。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「OECD の方向性のあり方に関する再考：「拡大路線」と「原点回帰」の狭間の中で」千葉商科大学〔編〕『千葉商大紀要・第 60 巻第 2 号』, pp.91-110, 2022 年 11 月 <p>【学会発表等】</p> <p>《学会討論者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”Robots and production networks in East Asia”, The 21th International Conference of the Japan Economic Policy Association, November 2022, Kobe University (presented by Mr. Kuson LEAWSAKUL) <p>3. 主な経費</p> <p>研究活動に用いるためのノート PC を購入。その他、これらに付随する消耗品費（書籍、ソフトウェア、プリンターインク、文房具）や学会年会費も相応に発生。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし。</p>					